

読み
行数 仮名
あり
↓ ↓

【第2章】人間と文学を語る

Key

2. 現代俳句 世界の切り取り方 (p. 50)			
	含意	がんい	表面に現れない意味を含みもつこと。また、その意味。
5	つむぐ		①言葉をつなげて文章を作る。多く、物語や詩歌などを作ることをいう。②綿・繭（まゆ）から繊維を引き出し、それらを合わせて糸にする。
6	眼前	がんぜん	目の前。
7	描写	びょうしゃ	客観的形象・事態・感情などを絵画・言語・音楽などにより的確に描き出すこと。
8	彩る	いろどる	①色をつける。彩色する。②装飾する。
15	* 育む	はぐくむ	①大切に守り、大きくする。②養い育てる。
24	添える	そえる	①主なもののそばに置く。②補助・支えとなる物・行為などを付け加える。
32	際立つ	きわだつ	他との違いや区別が明瞭である。目立つ。（※主に良いことの場合に用いる。）
36	夕闇	ゆうやみ	①夕方のうす暗さ。②陰暦で月の20日前後の、夕方の月のあがらない時刻の闇。また、その時刻。
36	おどろおどろしい		いかにも恐ろしい。気味が悪い。異様な。
38	樹	き	樹木。木材。
38	鬼女	きじょ	①女の姿をした鬼。②鬼のように残酷な女。
40	炎	ほのお	①怒り・恋情など、心中に燃え立つ激しい感情をたとえていう語。②気体が燃焼したときの、熱と光を発している部分。
41	大樹	たいじゅ	大きな木。
48	* 鮮烈	せんれつ	あざやかで強烈なこと（さま）。
51	白梅	はくばい	（「しらうめ」とも読む）白い花が咲く梅。
52	* 清冽	せいれつ	水が清らかで冷たいこと（さま）。
53	腐敗	ふはい	①精神が墜落し、悪徳がはびこること。②有機物質が微生物の作用によって分解され、悪臭を放つようになりたり有毒物質を生じたりすること。
53	寒気	かんき	寒さ。寒さの程度。また、冷たい空気。
54	凜と（した）	りん-と（した）	①態度や姿などがりりしく引き締まっているさま。②声や音がよく響くさま。
57	触覚	しょっかく	物に触れた時に起こる感覚。
61	どんより（と）		①空が曇って重苦しく感じられるさま。空気などが濁って不透明なさま。②目が濁っているさま。
61	思春期	ししゅんき	児童期から青年期への移行期。また、青年期の前半。精神的にも大きな変化の現れる時期で、一般的に12～17歳ごろのことを言う。
66	憤り	いきどおり	怒り。腹が立つこと。
68	癒し	いやし	肉体の疲れ、精神の悩み、苦しみを何かに頼って解消したりやわらげたりすること。
73	花粉症	かふんしょう	花粉によって起こるアレルギー。花粉が鼻や目の粘膜に触れることにより、くしゃみや鼻水、目の充血やかゆみなどの症状が起こるもの。
76	営み	いとなみ	行為。作業。生活のための仕事。